

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	放課後等デイサービスはぐつと中野		
○保護者評価実施期間	2026年 1月 9日		2026年 2月 1日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	14	(回答者数) 5
○従業者評価実施期間	2026年 1月 9日		2026年 2月 1日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数) 6
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 3月 21日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	看護師と支援員が連携をとりながら、医療的ケア児や重症心身障害児が安心安全に過ごせる環境作りが出来ている。	看護師や支援員が子どもの様子を日々の支援記録で共有し、体調にあわせた安全な支援を提供している。	医療的ケアに関する研修を行い、職員全体の知識の向上に努めている。
2	子どもたちが遊びの中で「できる、できた。」を実感し、活動を通して成長を支える支援を行っている。	家庭菜園での収穫や季節の行事を取り入れ、遊びの中で「できた」という達成感を味わえる機会を大切にしながら、活動を通して子どもたちの成長を支えている。	支援内容や活動の振り返りを行い、子どもの状態や成長に合わせた支援内容の充実を図る。
3	保護者との信頼関係を大切にし、子どもの日々の様子を連絡帳や写真で共有している。	送迎時や連絡帳を活用し保護者と情報共有し、家庭と連携した支援を行っている。	連絡帳や写真に加え、日々の様子を具体的に伝える工夫や定期的な面談の機会を設けることで、より丁寧で双方向の情報共有を充実させていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	医療的ケア児や重症心身障害児への支援について、職員全体で経験は積み重ねてきているものの、知識や対応力に差があり、支援の質にばらつきが見られることが課題となっている。	経験や研修機会、支援方法の共有や指導体制が十分でなく、職員ごとの知識や対応力に差が生じているため。	短時間の研修や事例共有、マニュアル整備やペア体制などを通して、日常業務の中で学びと共有を進めていく必要がある。
2	支援内容の記録や情報共有の方法が職員によって異なることがある。	記録方法や共有基準の統一ルールや指導体制が十分でなく、職員間で記録内容や情報共有の認識にばらつきが生じているため。	記録様式や共有ルールの明確化と周知、短時間での振り返りや確認の仕組みづくりを行い、職員間で共通認識を持てるようにする必要がある。
3			